

ふれあい情報

速報

■発行 日本高齢・退職者団体連合(退職者連合)
 ■発行人 羽山 治美 (編集人) 林 道寛
 ■連絡先 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-2-11
 Tel: 03-5295-0507 Fax: 03-5295-0541
 <e-mail>taisyo Kusharengo@sv.rengo-net.or.jp
 <ホームページ> <http://tr.jtuc-rengo.jp>

2014年 5月15日(木) **第180号**

(速報の記事・写真の転載は自由。データが必要な場合は送付可)

第3回傍聴行動報告 ■衆議院厚生労働委員会

地域医療・介護総合確保推進法案

庶民の声無視許さない！

介護保険制度から要支援サービス切り離し



▲委員会傍聴参加者を前に決意を語る民主党山井議員(右)。中央は連合平川局長、隣は連合花井総合政策局長、左は退職者連合の菅井事務次長。(5月14日、衆議院議員面会所)

多数の横暴！ 法案、自公が強行採決

民主党奮闘、全野党が採決反対の中

介護保険制度から要支援サービスを切り離し、市町村に移管することなどを柱とする地域医療・介護総合確保推進法案を審議していた衆議院厚生労働委員会は、五月一四日午後、自民・公明両党が審議を打ち切り、採決を強行しました。退職者連合はこの法案は、「社会保障制度の明らかな後退であり、撤回すべきだ」として、民主党委員を激励するため委員会傍聴行動を連合とともに取り組んできました。この日の採決強行は、民主党など全野党が審議不十分として

反対する中での暴挙であり、社会保障を充実するために消費税を増税したという国民への約束を破るもので、到底容認できないものです。退職者連合は、政府・与党に強く抗議します。

おかしいぞ？ 社会保障充実のために 消費税増税したのでは・・・。

義夫事務局次長が共に闘う連帯のあいさつを行いました。

また民主党委員を代表して山井和則衆議院議員が「介護制度から要支援サービスを切り離す法案を本日、政府・与党は質疑を打ち切り、強行採決しようとしている。許せない。法案には全野党が反対だ。皆さんの傍聴参加は、本当にあり難い。民主党はしっかり闘っていく」と決意を述べました。

現退一致で取り組み 67名参加

この日で三回目となる国会傍聴行動でしたが、連合と退職者連合が連携して現退一致でしっかりと取り組みました。委員会は、午前と午後開かれ、連合、退職者連合、日本介護クラフトユニオンなど延べ六七名が参加しました。

民主・山井議員が決意

午前八時半、衆議院議員面会所には、連合、退職者連合など大勢の傍聴参加者が詰めかけ、平川則男連合生活福祉局長の司会で意思統一のための集会を開催。連合からは花井圭子総合政策局長、退職者連合からは菅井

給付は抑制、サービスは低下、自己負担は増大。もっと議論を

午前の質疑では、民主党の 討論すべきではないか」とせ 榎木義道議員、中根康浩議員、 長妻昭議員が質問に立ち、田 村厚労大臣に法案の撤回をせ まりました。その中で中根議 員は「これには一九本の法案 が一つに束ねられている。こ れまで二八時間しか議論でき きていない。一本の法案あた り審議時間はたった一時間四 七分だ。強行採決は決してと って欲しくない。質問と田村 大臣の答弁がすれ違ってい る。すれ違いは時間をかけて

追及に突き進む

安倍首相

午後には安倍晋三首相が政 府を代表して出席。傍聴席は 立ち見も含めてぎっしり埋め つくされました。

民主党榎木義道議員と大西 健介議員が首相への質問に立 ちました。「消費税の上がつた 分は、社会保障費に回ってい ないのでは。国民は不信感を

はまだある」と姿勢を厳しく 批判しました。

持っている」(中根議員)「認知 症への初期対応で問題が提起さ れている。一回の総理答弁だけ で採決は、大きな禍根を残す」 (榎木議員)など、二人の追及 に安倍首相は「見解の相違だ」 と開き直る場面もありました。

委員のご質問に ついては、**見解の 相違**でございま す。

本音は**財政抑 制、社会保 障費の削減**だ。



▲厚労委員会に出席して、民主党の質問に答 弁する安倍首相。右後ろは田村厚労大臣(5月 14日、衆議院)



◀厚労委員会では藤茂之 委員長(自民)に詰め寄 り、強行採決に抗議する 野党議員のみなさん。 (5月14日、午後4時40分。 衆議院)

▼厚労委で奮闘した民主党の各委員の皆さん方



大西健介議員



長妻昭議員



山井和則議員



榎木道義議員



中根康浩議員